

## 第2節：Important dates and some information

年号	年齢	事項 → 1937・48・55 年来日。
1880	0 歳	6月27日：アメリカ合衆国アラバマ州タスカンビアに生まれる。
1882	2 歳	1月：発熱のため盲目となり、同時に聴覚も失う。
1886	6 歳	グラハム・ベル氏にあう。
1887	7 歳	3月3日：アニー・サリバン氏家庭教師としてくる。 4月5日：WATER→すべての物に名前があることを発見する。
1888	8 歳	パーキンス（ボストン）盲学校に入学。
1890	10 歳	発声法を学ぶ。：1891年トミーのため募金。
1894	14 歳	ニューヨークのライトハマーソン聾啞（ろうあ）学校に入学
1896	16 歳	（発音の研究）。 7月：聾啞教育大会で演説。 8月：父が亡くなる。
1900	20 歳	10月：ケンブリッジ女学校に入学。
1903	23 歳	10月：ラドリフ大学に入学。
1904	24 歳	『自叙伝』を出版。
1906	26 歳	大学卒業
1918	38 歳	マサチューセツ州盲人救済会委員に任命される。
1924	44 歳	経済危機→莊園を手放す。映画『解放』に出演。母が亡くなる
1926	46 歳	米国盲人協会に加入。（その資金集めに奔走）
1936	56 歳	ヘレンケラーの熱心な運動などにより盲人国民図書館設立決定。
1964	84 歳	サリバン76才で亡くなる。
1968	88 歳	アメリカ最高の勲章『メダル＝オブ＝フリーダム』をおくられる。 死去。

### [ (1) 生まれ:1880年 ]

Helen Keller was born on June 27, 1880, in a small town in Alabama, U.S.A. Until about two, she was quite an ordinary cute little girl. (\* 8: p7)

{【浜田訳文例】ヘレンケラーは、1880年6月27日に、アメリカ合衆国アラバマ州の小さな町で生まれました。彼女は2才までは全く普通の可愛らしい少女でした。}

### [ (2) 病気→blind, deaf, and mute: 1882年 ]

→第3節：My favorite words ① 参照

It was on a very cold morning in February that Helen suddenly fell ill. ....After a few days the fever left her, but now poor Helen could no longer see or hear. She was only 19 months old when she became blind and deaf. (\* 8: pp7-8)

....when she wanted something and couldn't make people understand what she wanted, she became very angry and showed her bad temper by screaming, kicking, breaking things and acting in a very bad way until she got what she wanted. (\* 7: p67)

{【浜田訳文例】ヘレンが突如病に倒れたのは、2月の非常に寒い朝のことであった。……。二、三日後に、熱は下がったが、衰れなヘレンはもはや見ることも・聞くこともできなかった。彼女が聴力と視力を失ったのは、19箇月のときであった。

……。彼女が何かを望み、人々に自分が何を望んでいるかを理解させることができなかつたときには、彼女は激怒し、叫び、蹴り、物を壊し、自分の不機嫌さを示した。そして、彼女は自分が望んだものを得るまで、非常に悪い流儀で振る舞っていた。}

[ (3) water :1887 年]→ This living word gave her soul light and hope.

→同上 (3) ② ③ 参照

[ (4) サリバン死す: 1936 年]

The year was 1936. Annie was 70 years old. Her eyes were worn out with work. She was almost blind. .... Long nights Helen sat beside her. She and Polly nursed Annie tenderly. Helen held Teacher's hand when she died. Helen felt as if her own life had ended. They had been together almost 50 years. It was the saddest time of Helen's life. "A light has gone out that can never shine for me again," she said. (\* 6: p35)

Helen never forgot that all of her work and all of her honors and all the light in her life came first from her beloved Teacher. One of Helen Keller's most beautiful books is the story of Anne Sullivan Macy's life. In a little verse Helen wrote: "Teacher — and that was all. It will be my answer In the dark When death calls." (\* 6: p41)

{【浜田訳文例】それは、1936年のことであった。アニーが70歳のことである。彼女の目は仕事で疲労しきっていた。彼女はほとんど盲目状態にあった。……幾晩も、ヘレンは、アニーの側（そば）に座っていた。ヘレンとポリーはアニーの看護を手厚くしていた。彼女が死ぬときに、ヘレンは先生の手を握った。ヘレンは恰（あたか）も彼女自身の人生が終わったかのように感じていた。彼女らはほぼ50年間一緒にいたのである。それはヘレンの人生の中で最も悲しいときであった。「私にとって決して再び輝くことができない明かりが消えうせました」と、彼女は言った。

ヘレンは、仕事の全てが、彼女の受けた栄誉の全てが、彼女の人生における灯の全てが、何はさておいてもまず彼女の最愛の先生のおかげであることを決して忘れなかった。ヘレンケラーの最も美しい本の中の1冊は、アン・サリヴァン・メイシーの人生という物語であった。短い韻文の中で、ヘレンは書いた。「先生——それは、全てでした。暗闇の中で、死が呼びかけるとき、それが私の答えとなるでしょう。」}

[ (5) HELEN 死す: 1968 年 (88 才) ]

Helen Keller continued encouraging disabled persons and contributing to the welfare of them until she died on June 1, 1968, at the age of 88. (\* 8: p17)

{【浜田訳文例】ヘレンケラーは、1968年6月1日に88歳で死ぬまで、障害を持つ人たちを励まし続け、彼らの福祉に貢献し続けた。}

◎写真・動画からの解説（斜字は私の YouTube からの抜粋です。）

## (1) ヘレンケラーの写真と解説

20世紀・シネマ・パラダイス

[http://cinemara.iinaa.net/The\\_Miracle\\_Worker.html](http://cinemara.iinaa.net/The_Miracle_Worker.html)

## (2) ヘレンケラーの動画で見る解説

今回の第2節での動画収録は、ヘレンケラーが実際に発声をしているシーンの録画（英語音声、日本語字幕）と日本の番組『知ってるつもり』（日本語）から紹介します。リンク切れ時は御容赦を。

### ①ヘレン・ケラー 実写フィルム

<https://www.youtube.com/watch?v=Y7MRmP-9WcE>

#### 【YouTube 記載項目】

東京ピースライオンズクラブ

チャンネル登録者数 210人

ヘレン・ケラー アンナ・サリバン 実写映像

いかに喋ることを学んだのか。

字幕：ライオンズクラブ国際協会330-A 地区 東京ピースライオンズクラブ L 山下

Miss Helen Adams Keller Film Japanese subtitles

### ②知ってるつもり?!ヘレン・ケラー&中村久子 20世紀伝説

<https://youtu.be/avUw1IghDE?t=81>

#### 【YouTube 記載項目】

h komasa

チャンネル登録者数 1.27万人

知ってるつもり?!20世紀伝説 ヘレン・ケラー／中村久子

～命と対話した人々～

1999年11月10日放送

・ヘレン・ケラー

ヘレン・アダムス・ケラー (Helen Adams Keller、1880年6月27日 - 1968年6月1日) は、アメリカ合衆国の教育家、社会福祉活動家、作家である。

視覚と聴覚の重複障害者（盲ろう者）でありながらも世界各地を歴訪し、障害者の教育・福祉の発展に尽くした。

・1887年（7歳） - ヘレンの両親は聴覚障害児の教育を研究していたアレクサンダー・グラハム・ベル（電話の発明者として知られる）を訪れ、ベルの紹介でマサチューセッツ州ウォータータウンにあるパーキンス盲学校の校長マイケル・アナグノスに手紙を出し、家庭教師の派遣を要請した。3月3日に派遣されてきたのが、同校を優秀な成績で卒業した当時20歳のアン・サリヴァン（通称アニー）であった。サリヴァンは小さい頃から弱視であったため（手術をして当時はすでに視力があつた）、自分の経験を活かしてヘレンに「しつけ」「指文字」「言葉」を教えた。おかげでヘレンはあらかじめかけていた「話すこと」ができるようになった。サリヴァンはその後約50年に渡りよき教師、そしてよき友人としてヘレンを支えていくことになる。

・1888年5月（7歳） - ボストンのパーキンス盲学校に通学始める。以後3年間、断続的に学ぶ。

・1890年3月（9歳） - ボストンのホレス・マン聾学校の校長、サラ・フラーから発声法を学ぶ。

・1894年（14歳） - ニューヨークのライト・ヒューマソン聾学校に入学。発声の勉強に励む。

・1896年10月（16歳） - ケンブリッジ女学院に入学、まもなく父アーサーが死去。

・1897年12月（17歳） - サリヴァンが校長のアーサー・ギルマンと教育方針をめぐる衝突したため、ヘレンはケンブリッジ女学院を退学。2人はボストン南郊のレンサムに家を借りて落ち着く。ヘレンは、もう1人の家庭教師であるキースの手を借

りて勉強を続ける。

- ・1900年10月（20歳） - ラドクリフ・カレッジ（現：ハーバード大学）に入学。
- ・1902年（22歳） - 『わたしの生涯』を出版する。
- ・1904年（24歳） - ラドクリフ・カレッジを卒業、文学士の称号を得る。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%98%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%82%B1%E3%83%A9%E3%83%BC>



中村 久子（なかむら ひさこ、1897年11月25日 - 1968年3月19日）は、明治～昭和期の興行芸人、作家。両手・両足の切断というハンデにも拘らず自立した生活を送った女性として知られる。

#### 幼少期

1897年（明治30年）11月25日、岐阜県大野郡高山町（現・高山市）で父・釜鳴栄太郎と母・あやの長女として出生し、幼名は「ひさ」。弟に栄三がいる。2歳の時に左足の甲に起こした凍傷が左手、右手、右足と移り、凍傷の影響による高熱と手足が真黒に焼ける痛みと苦しみに昼夜の別なく襲われた。

3歳の時にこの凍傷が元で特発性脱疽となる。手術すべきか否か、幾度となく親族会議が行われたが、決断を下さないうちに、左手が手首からポロリと崩れ落ちたという。その後右手は手首、左足は膝とかかとの中間、右足はかかとから切断する。幾度も両手両足を切断し3歳の幼さで闘病生活が始まる。

7歳の時に、父・栄太郎が急性脳膜炎により急逝。さらに不幸は続き10歳の時に弟の栄三とも生き別れをした。そんな激動の生活の中、彼女を支えてくれたのは祖母ゆきと母あやであった。祖母と母の厳しくも愛情のある子育てのお蔭で、久子は文字や編み物をできるようにまでなった。

#### 見世物小屋を辞めてから晩年まで

1937年（昭和12年）4月17日、41歳の久子は東京日比谷公会堂でヘレン・ケラーと出会う。久子はその時口を使って作った日本人形をケラーに贈った。ケラーは久子を、「私より不幸な人、私より偉大な人」と賞賛した[1]。翌42歳の時、福永鷺邦に出会い、「歎異抄」を知る。

50歳頃より、執筆活動・講演活動・各施設慰問活動を始め、全国の身障者および健常者に大きな生きる力と光を与えた。久子は講演で全国を回る中で自分の奇異な生い立ちを語るとともに、自分の体について恨む言葉も無く、むしろ障害のおかげで強く生きられる機会を貰ったとして「『無手無足』は仏より賜った身体、生かされている喜びと尊さ（を感じる）」と感謝の言葉を述べ、「人間は肉体のみで生きるのではなく、心で生きるのだ」と語っている。1950年（昭和25年）54歳の時、高山身障者福祉会が発足し初代会長に就任する。65歳の時、厚生大臣賞を受賞した。

1968年（昭和43年）3月19日、脳溢血により高山市天満町の自宅において波乱に満ちた生涯に幕を閉じる。享年72。遺言により遺体は、娘の富子らによって献体された。

#### 語録

人の命とはつくづく不思議なもの。確かなことは自分で生きているのではない。生かされているのだと言うことです。どんなところにも必ず生かされていく道がある。すなわち人生に絶望なし。いかなる人生にも決して絶望はないのだ。

-晩年に行われた講演会において-

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%...>

この動画の音楽

曲 *When I Fall in Love*

アーティスト *André Gagnon*

アルバム *Twilight Time*